

# 平成30年度「大分県学力定着状況調査」「全国学力・学習状況調査」の結果について

佐伯市立佐伯東小学校

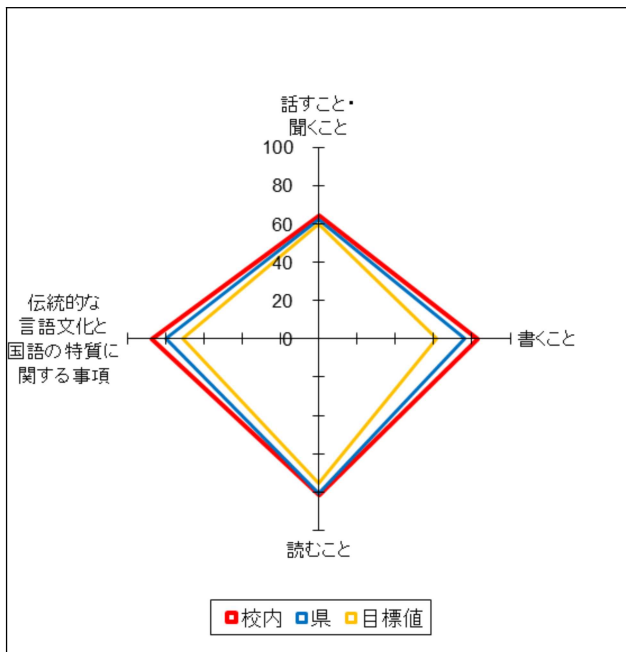
「大分県学力定着状況調査」・「全国学力・学習状況調査」は、児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるとともに、教育に関する継続的な検証サイクルを確立することを目的としています。なお、本校の調査結果と今後の取組等について公表する目的は、保護者や地域に対する説明責任を果たすとともに、今後の取組への協力を得るためでもあります。

本学力調査結果は、あくまでも学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを申し添えます。

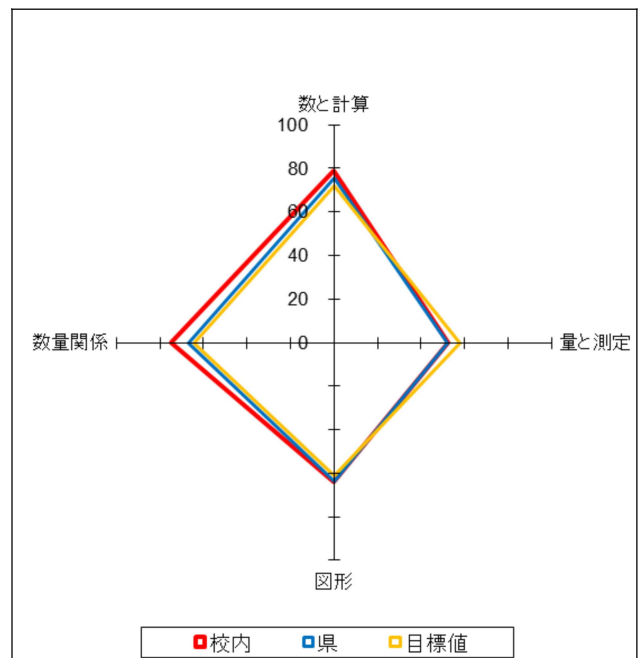
## 1 大分県学力定着状況調査（5学年）の結果・分析

### (1) 領域別得点結果

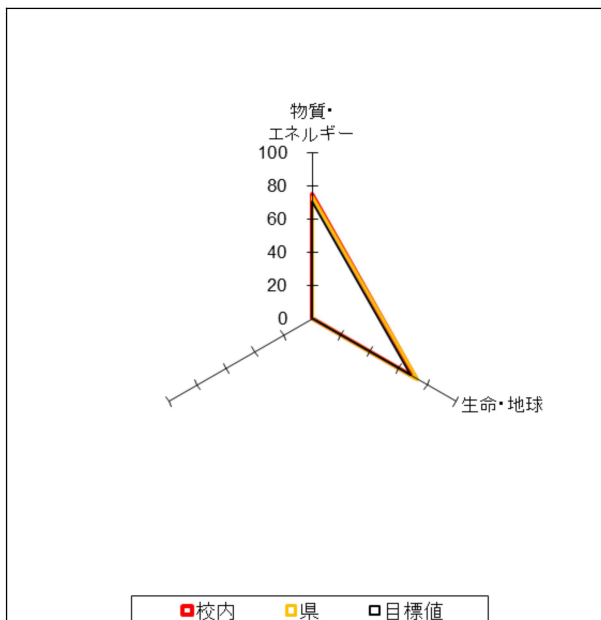
#### 国語



#### 算数



#### 理科



## (2) 分析結果と今後の指導について

### 【国語】

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全領域とも県平均・目標値を上回っていた。
- ・「書くこと」については、県平均を 6.6 ポイント上回っていた。これについては、単元を貫く言語活動を重視した指導の中で、目的意識をもたせたり条件を付けたりした「書く」活動を多く取り入れてきた成果だと考えられる。今後も単元を貫く言語活動を重視したにした指導を続けていきたい。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、県平均を 7.8 ポイント上回っていた。特に漢字の書き・読みの点数が高かった。

このように国語の成績がアップしてきたのは、スキルタイムでの取組や家庭学習振り返り習慣を毎月設け保護者と連携した取組より学習に向かう姿が見られ出したことが成果の一つではないかと考える。

### 【算数】

- ・「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の全領域とも県平均を上回っていた。「量と測定」については県平均を上回っていたものの目標値を下回っていた。詳しく内容をみると、「面積」についての問題の正答率が低かった。これについては家庭学習プリント等で面積の復習を行っているが、本年度の4学年の面積の指導も工夫していきながらしっかりと理解させていきたい。
- ・「数量関係」については、県平均を 7.8 ポイント上回っていた。
- ・算数については、「知識」に比べて「活用」を苦手としている子が多く見られる。これについては、本校が算数科の指導で取り組んでいる「深める問い」を工夫し、しっかりと考え、話し合う活動を重視したり、プログラミング学習を取り入れたりしながら「活用する力」を伸ばしていきたい。

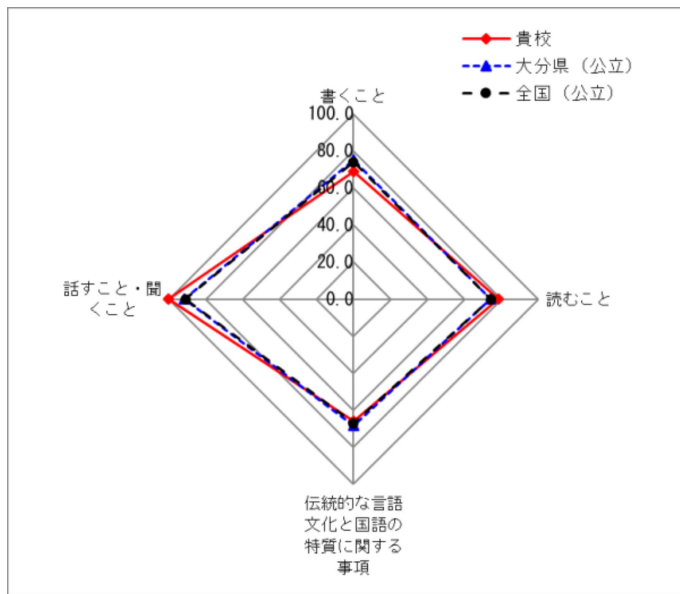
### 【理科】

- ・「物質・エネルギー」の領域については、目標値・県平均ともに上回っていたが、「生命・地球」については、目標値は上回ったものの県平均を 1.6 ポイント下回っていた。
- ・2学期より理科担当教員ができたので、担任と協力しながら充実した実験や観察を行ったり、「課題把握」→「仮説」→「検証」→「考察」→「まとめ」の各課程の充実した指導を行い、子どもたちの力を伸ばしていきたい。

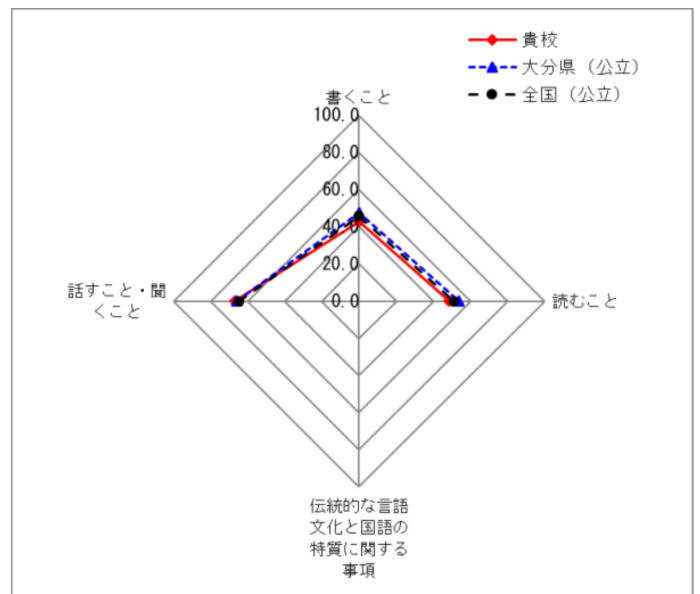
## 2 「全国・学力・学習状況調査」(6学年)の結果・分析

### (1) 領域別得点結果

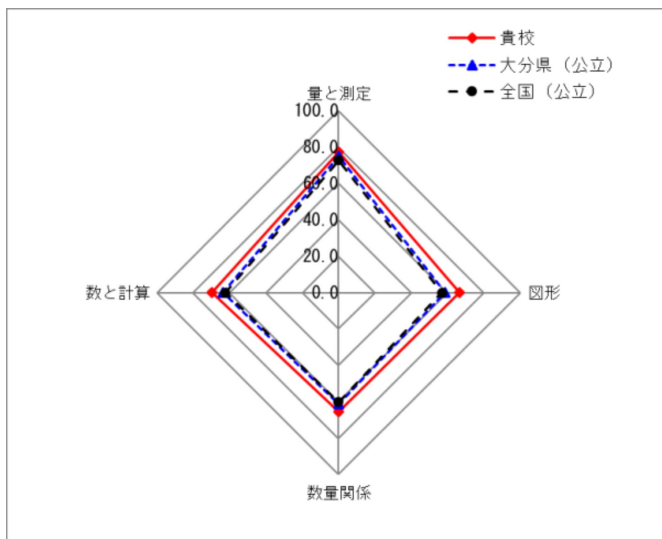
#### 国語 A (知識)



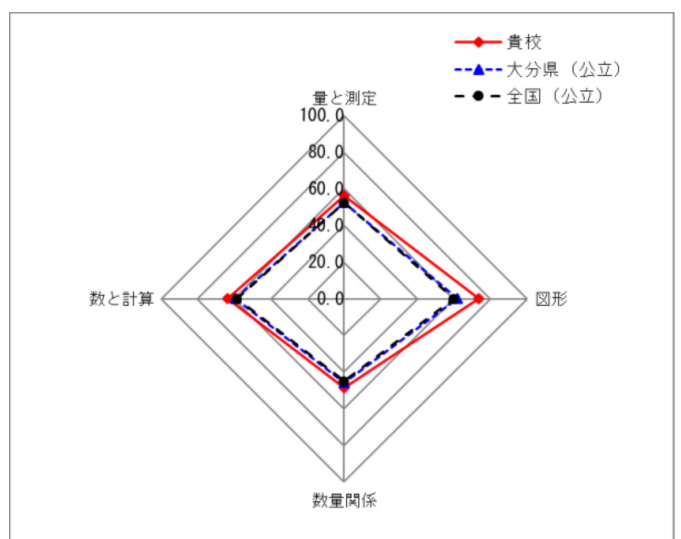
#### 国語 B (活用)



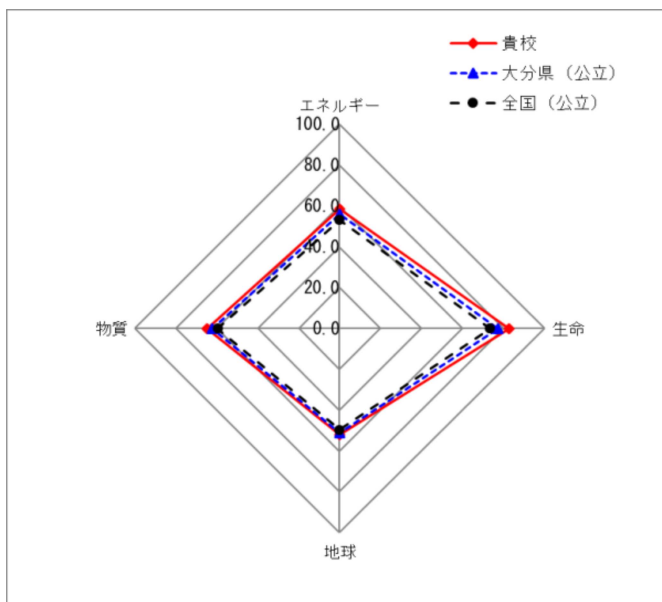
#### 算数 A (知識)



#### 算数 B (活用)



#### 理科



## (2) 分析結果と今後の指導について

### 【国語】

「話すこと・聞くこと」の領域については基礎・活用ともに全国平均を上回っていた。「書くこと」については、基礎・活用ともに全国平均を下回っていた。

「書く」活動については、国語科で単元を貫く言語活動を重視した指導を行い、目的や条件に応じた文章を書く活動を行ってきたはいるが、まだまだ、充実した活動になっておらず子どもたちの力を伸ばしきっていないと反省させられた。

これからも、目的や条件に応じた文章を書き、それを自分で推敲したり、友だち同士でよいところやもっと工夫したらよいところを指摘しあいながら、よりよい「書く」活動を進めて生きたい。また、国語科だけでなく、他教科でも条件に応じた文章を書く活動を充実させていきたい。

### 【算数】

算数では「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のすべての領域で基礎・活用ともに全国平均を上回っていた。特に活用の「図形」領域では全国平均を 13 ポイント以上も上回っていた。

本校はこれまで算数の活用の分野が課題となっており、どうすれば算数における活用の力をつけることができるか研究・実践を重ねてきた。一昨年度より県小算研の研究指定校となり、校内で講演会や授業研究・公開授業を行ってきた。授業では、「課題」を焦点化しより深い討議ができるように「深める問い」の工夫に努めてきた。また、習熟度別指導で子どもたちの実態に応じた指導を続けてきたことや家庭学習振り返り習慣を毎月設け保護者と連携した取組より学習に向かう姿が見られ出したことも成果の一つではないかと考える。

今後も、研究・実践を重ねながら算数の指導に取り組んで生きたい。

### 【理科】

理科では、「知識」・「活用」とともに全国平均を上回っていた。特に「知識」の分野では亜全国平均を 13 ポイントも上回っていた。また、「物質」「エネルギー」「生命」「地球」のすべての領域で全国平均を上回っていた。

問題別に見ていくと、16 問中 12 問で全国平均を上回っていた。特に全国平均より大きく下回っていた問題は、「流れる水のはたらき」で「より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を元に分析して考察し、その内容を記述する」で 7.6 ポイント低かった。日ごろの授業で、実験結果の考察したり、それを文章で記述する活動を充実させていきたい。